

劔岳遭難(年不明8月)

80代男性で登山歴30年以上。入山から2日後、家族に「道に迷っている」と電話。捜索開始から2日後、登山道から外れた地点で遺体を発見した。



解説

8月上旬、早月尾根から劔岳を目指し、別山尾根を下る計画を立てた。登山届は提出済み。
発見場所は別山尾根の東側にある平蔵谷の左岸だった。遭難場所は悪天候だったため、ガスが濃く視界が悪かったと考えられる。遺体は外傷が多く、道迷いから転落したと考えられる。

アルプスの岩場では、ルート上の岩に○印がペンキで書かれているが、見つけにくいことがよくある。増してや視界が悪ければなおさらである。道迷いは、「読図が分からない」だけではなく「視界が悪く道が分かりづらい」等の気象条件によっても起こりえる。

「道がわからない」→「あせり・不安」→「冷静さを失う」→「道ではないところを歩く」→「滑落」という結末も少なくない。十分注意したい。